

平成 22 年 3 月 1 日

各位

明治薬科大学 分析化学教室・臨床遺伝学講座
教授 櫻庭 均

臨床遺伝学公開シンポジウム 2010 のお知らせ

臨床遺伝学公開シンポジウム 2010 を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

記

1. シンポジウムテーマ

リソソーム病の診断から治療まで

2. 発表者と演題

別紙プログラムを参照

3. 日時

平成 22 年 3 月 25 日(木曜日)

シンポジウムおよび懇親会受付 13:30～

シンポジウム 14:00～16:00

懇親会 16:00～17:00

4. 場所

明治薬科大学 講義棟 1 階 102 講義室(シンポジウム)

厚生棟 1 階食堂(懇親会)

(〒204-8588 清瀬市野塩 2-522-1)

問合せ先

菅原佳奈子

明治薬科大学 臨床遺伝学講座

TEL&FAX: 042-495-8732

E-Mail: sugawara@my-pharm.ac.jp

以上

臨床遺伝学講座公開シンポジウム 2010 プログラム

「リソソーム病の診断から治療まで」

- 14:00-14:10 開会の辞
ご挨拶(大学) 久保陽徳(明治薬科大学 学長)
ご挨拶(法人) 住吉義通(明治薬科大学 理事長)
- 14:10-14:20 私たちは、この様にリソソーム病研究に取り組んでいます
櫻庭均(明治薬科大学分析化学・臨床遺伝学 教授)
- 14:20-14:30 ファブリー病のハイリスク・スクリーニング診断システムを作りました
菅原佳奈子(明治薬科大学臨床遺伝学 助教)
- 14:30-14:40 ファブリー病の有用なバイオマーカーを見つけました
兎川忠靖(明治薬科大学分析化学 准教授)
- 14:40-14:50 組換え酵素薬の取り込み機構の解明を試みています
鈴木俊宏(明治薬科大学分析化学 講師)
- 14:50-15:00 分子設計によりファブリー病に対する新しい酵素薬を開発しています
田島陽一(東京都臨床医学総合研究所 研究員
明治薬科大学臨床遺伝学 客員研究員)
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-15:20 低分子化合物による変異 α -ガラクトシダーゼの安定化機構の解明を目指します
月村考宏(明治薬科大学分析化学 大学院生)
- 15:20-15:30 ザンドホッフ病のモデルマウスからニューロスフェアを作りました
黒田麻祐子(明治薬科大学分析化学 大学院生)
- 15:30-15:40 組換え酵素の脳内補充療法の基礎的検討をしています
川島育夫(東京都臨床医学総合研究所 研究員
明治薬科大学臨床遺伝学 客員研究員)
- 15:40-15:50 酵母を使ってリソソームに入りやすい酵素を作ります
千葉靖典(産業技術総合研究所 主任研究員
明治薬科大学臨床遺伝学 客員研究員)
- 15:50- 閉会の辞
櫻庭均(明治薬科大学分析化学・臨床遺伝学 教授)
- 引き続き
臨床遺伝学講座 研究室見学会
- 16:00-17:00 懇親会